

祭祀の様相を捉える

所在地：花畑5丁目・西保木間4丁目・保木間5丁目



花畑遺跡 はなはた いせき



復元された土器



大量の土器が出土した土坑

■ 花畑遺跡の発掘調査

花畑遺跡は埼玉県との境をなす毛長川河岸に形成された、標高約3mの自然堤防上に位置しています。昭和26年(1951)からの毛長堀改修工事等の大規模開発の際に、地元郷土史家により大量の土師器や須恵器等が確認されたのが、遺跡発見の契機となりました。花畑遺跡では平成5年(1993)から平成7年にかけての下水道関連工事に伴う発掘調査のほか、保木間5丁目38番地内においても平成25年(2013)及び平成26年に大規模な発掘調査が行われています。調査で出土した遺物・遺構は大半が古墳時代中期から後期(5世紀から6世紀)のものです。

■ 祭祀関連遺構の発見

花畑遺跡の調査で特筆すべき遺構は、焼土や炭化物の層が混ざり、大量の土器類が廃棄される形態の土坑です。発見された土坑は、これまで伊興遺跡特有のものと思われていた祭祀関連遺構に類似し、この発見により伊興遺跡と同質の祭祀が毛長川流域の遺跡で展開していた可能性が示されました。

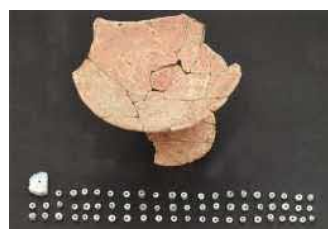
■ 毛長川流域の祭祀

花畑遺跡からは土器及び玉類がまとまって出土する土坑も検出され、土器は同一器種ごとにまとめられ、壊れていない状態のものも多く出土しています。壊れていた土器も圧力により倒れて破砕したものと考えられ、投げ込まれて廃棄されたものというよりは、土坑内に置かれたまま廃絶された状況が想定されます。

また、高坏の坏内に収められたかのような状況で発見された白玉と、鏡を模した鏡形石製品も存在し、祭祀に使用されていたと考えられます。花畑遺跡で発見された土坑は遺物の使用状況、使われた土器の種類や配置状況などにより、祭祀行為の具体的様相を示す好事例となりました。



規則性をもって並べられた土器類



高坏内に納められていた石製類